

「やってみせる」大麦の増収対策

中能登農林総合事務所

中能登管内は、湿田が多いにもかかわらず排水対策が不十分なため、大麦の収量が上がらないことから生産者の生産意欲が低く、どのようにして収量を確保し意欲を向上させるかが課題となっていました。

そこで、中能登農林総合事務所では、全農いしかわと連携し水田特有の水を通さない土の層を破壊する「サブソイラ」という機械を用い、実際に排水対策を行いその効果をやってみせることで、水田の大麦栽培において排水対策が如何に重要であるか知ってもらうこととしました。

場所は、管内で最も大麦栽培が行われている志賀町の水田で、機械による排水対策とその後の栽培管理について、管内では初めての取組みとなる現地研修会を2回（3月1日は根雪が消える時期、4月5日は穂が出る前の最後の葉である止葉が出てくる時期、いずれも肥料を入れる時期の目安）開催し、「やってみせる」ことでやり方と効果を生産者に直に示し実感してもらいました。

現在、大麦は順調に育っており、排水対策を行った水田では、10a当たり200kgもなかった収量が400kg以上となることが見込まれており、効果を実感した生産者は、排水溝の手直しや栽培管理を積極的に行うようになりました。

また、大麦栽培に取り組んでいる集落営農組織では、次の年に向けてサブソイラの導入を検討するなど普及活動の成果が現れています。



サブソイラによる排水対策の実践



大麦現地研修会

問い合わせ先：農業振興部（076-752-5522）